

平成 12 年 7 月 ~ 12 月 **長期漁況海況予報** 平成 12 年 7 月 発行

大分県海洋水産研究センター 879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦

Phone0972-32-2155 Fax.0972-32-2156 <http://www.mfs.pref.oita.jp>

海況経過<平成 12 年前期>

黒潮

12 年前期は、九州南東沖で頻繁に黒潮小蛇行が形成され、それらが順次潮岬沖へ東進後発達し、遠州灘沖の黒潮蛇行流路に大きな変動を引き起こしました。

黒潮北縁と都井岬との距離の状況は、期間を通して離接岸を繰り返しました。また、足摺岬との状況は、全体的に接岸傾向が強くなりました(南西東海沿岸海況速報による)。

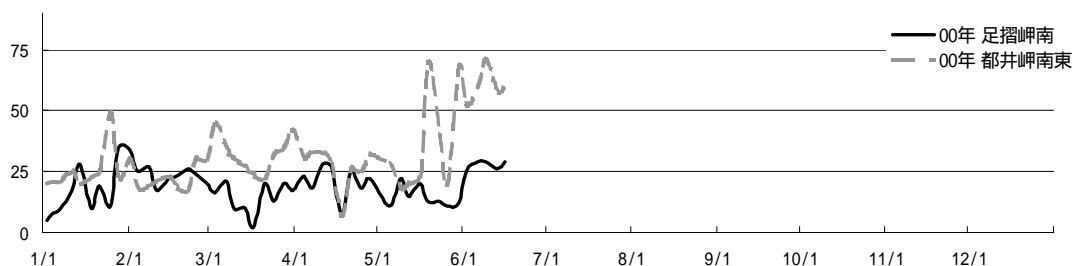


図 1 足摺岬南方及び都井岬南東方向の黒潮北縁までの距離 (マイル)

水温

豊後水道では「高め」～「低め」でした。大分県側の海域を北部(沿岸定線Sta.1-9)、中部(同Sta.10-16)及び南部(Sta.17-22)に、また表層(0m)、10m、20m、30m、50m及び75mに分けると、北部では1月は「やや高め」、2月は「やや低め」、3-4月は「平年並」、5-6月は「やや高め」で推移しました。中部では期間を通して「平年並」の傾向でした。南部では、1月は「やや高め」、2月は「やや低め」、3月は「高め」、4月は「やや低め」～「平年並」、5月は「高め」～「平年並」で経過し、6月は「平年並」の傾向となりました。

伊予灘と別府湾では「やや高め」～「やや低め」でしたが、5月に各層で「やや低め」であることが多く、また、伊予灘では1-2月が「やや高め」の傾向となりました。

塩分

豊後水道では「平年並」～「きわめて低め」でした。北部では1-3月は「やや低め」、4月以降は「平年並」で推移しました。中部では1月の20m以深で「きわめて低め」、2月は「やや低め」、3-5月は「平年並」、6月は「やや低め」で推移しました。南部では1月、2月、4月、6月とマイナス傾向が強く、特に6月の10m以浅で「きわめて低め」となりました。

伊予灘と別府湾では「平年並」～「きわめて低め」でした。1-3月が「やや低め」、4月以降は「平年並」の傾向でしたが、別府湾では6月表層(0m)が「きわめて低め」となりました。

表1 水温の平年偏差評価(豊後水道 2000年)

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (北部) | 0m | + | - | - + | + - | ++ | + |
| | 10m | + | - | - + | - + | + | + |
| | 20m | + | - | - + | - + | + | + |
| | 30m | + - | - | - + | + - | + | + |
| | 50m | + | - | - + | + - | + - | + |
| | 75m | + - | - - | - | - | - + | + - |
| (中部) | 0m | + - | - + | ++ | - + | + | + - |
| | 10m | + - | - + | + | - + | + - | + - |
| | 20m | + - | - + | + - | + - | - + | + - |
| | 30m | - + | - + | + - | + - | - + | + - |
| | 50m | - + | - + | + - | + - | - + | + - |
| | 75m | + - | + - | + - | - + | - + | + - |
| (南部) | 0m | + | - | ++ | - + | ++ | - |
| | 10m | + | - | ++ | - | ++ | - + |
| | 20m | + | - | ++ | - | + | - + |
| | 30m | + | - | ++ | - | + - | - + |
| | 50m | + | - | ++ | - + | + - | + - |
| | 75m | + - | - | + - | - + | - + | + - |

表2 水温の平年偏差評価(伊予灘・別府湾 2000年)

| | | 1月 | 2月 | 3月 | 4月 | 5月 | 6月 |
|-------|-----|-----|-----|-----|-----|-----|-----|
| (伊予灘) | 0m | + | + | - + | + - | + - | + - |
| | 10m | + | + | - + | + - | - | - + |
| | 20m | + | + | - + | ND | - | - + |
| | 30m | + | + | - + | ND | - + | - + |
| | 50m | + - | + - | - + | ND | - + | + - |
| (別府湾) | 0m | + - | + | - + | + - | + | + - |
| | 10m | + | + - | - + | + - | - | - |
| | 20m | + | + - | - + | + - | - | - + |
| | 30m | + - | + - | - + | + - | - | + - |

注) + + + : かわめて高め ++ : 高め + : やや高め + - : 高めの平年並
 - + : 低めの平年並 - : やや低め - - : 低め - - - : かわめて低め

海況の見通し<平成12年後期>

黒潮

黒潮の流型は9月以降C型を経てB型基調で推移するでしょう。また、九州南東沖で小蛇行が数回形成され、東進現象がみられるでしょう。

水温

「平年並」でしょう。

予測の根拠

中央水産研究所黒潮研究部及び関係府県:平成12年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2000)

気象庁気候・海洋気象部:平成12年夏季の北西太平洋の海面水温予報(2000)

神戸海洋気象台:平成12年夏季の南日本海区の海面水温予報(2000)

資源状況と漁況経過 <平成 12 年前期>

マイワシ

昨年までの経過

鶴見町、米水津村及び蒲江町のまき網漁獲量(特にことわりのない限り、まき網についての数値は、この3町村に関するもの)は、1986年から1990年までの間は、年間30,000トン前後のマイワシの漁獲があり、その大半は3月から7月に漁獲される体長15cm以上の「中羽」以上でした。

1991年以降、「中羽」以上は減少傾向となり、一方、7月から9月にかけて主に漁獲される体長10cm前後の「小羽」も1993年に、一旦、増加しましたが、その後は低調に推移しました。全銘柄の漁獲量は一昨年(1998年)まで8年連続で減少し、昨年(1999年)は696トンと前年に比べ僅かながら増加しました。

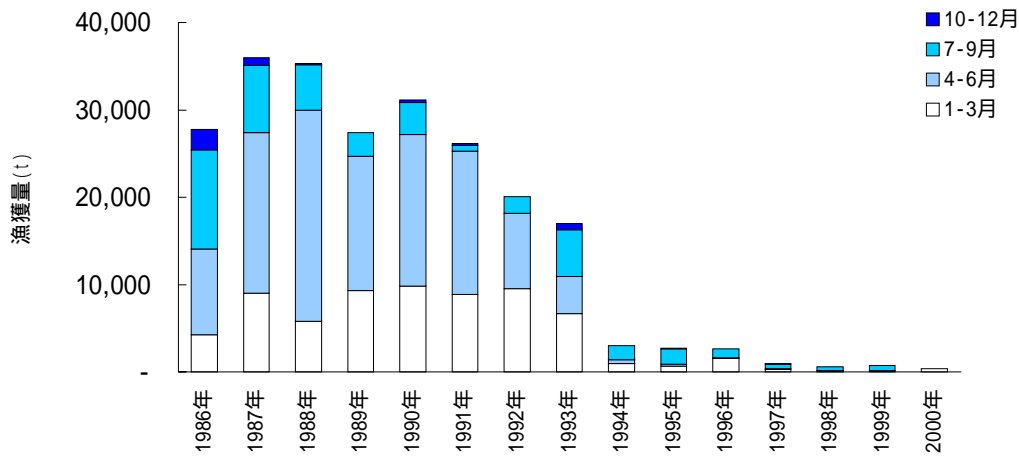


図2 マイワシのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江町)

本年の経過

2000年前半の月別漁獲量は、1～3月が346トン(平年比7%)と依然として低水準でしたが、この時期に300トンを超える漁獲があったのは1996年以來のことでした。4～6月は20トンで前年比24%と少なく、平年比は1%に達しませんでした(以下、まき網の平年値を1986～1999年の平均漁獲量とする)。

カタクチイワシ(成魚)

昨年までの経過

まき網によるカタクチイワシの漁獲量は、これまで一年毎に増加と減少を繰り返しており、漁獲の多い年(偶数年)で3,000トン前後、漁獲の少ない年(奇数年)で1,000～2,000トン程度の漁獲となっていました。しかし、昨年(1999年)は1月中旬から7月中旬にかけて豊漁が続き、1986年以降最高の漁獲となりました。平年の漁期は6月から9月までが中心なので、1999年は漁獲量及び漁期とも特異的な年となりました。

本年の経過

2000年前半の月別漁獲量は、1～3月が723トン(前年比25%、平年比149%)で、豊漁だった昨年に比べると減少しましたが、平年を上回る漁獲となりました。一方、4～6月は274トンで前年比18%、平年比42%と低調に推移しました。

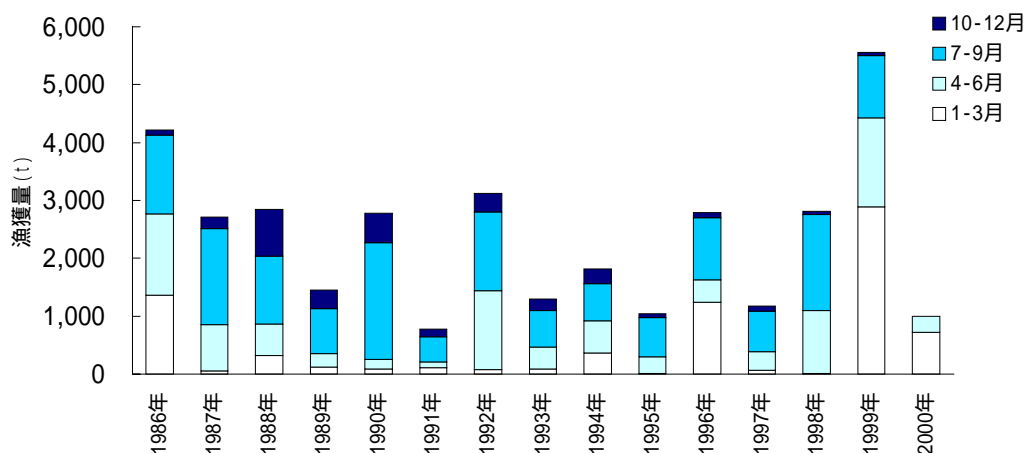


図3 カタクチイワシのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江町)

カタクチイワシ(シラス)

昨年までの経過

佐伯湾(佐伯・鶴見)の船曳網によるシラスの漁獲量は、1992年に529トンの最高値を記録した後は、減少傾向となり、1995年に170トンと最低値を記録しました。その後は、増加傾向を示していますが、1993年以前には及びませんでした。

別府湾(杵築・日出)では、1991年以降1,200～2,200トンで変動し、1998年の漁獲量は、1990年以降初めて1,000トンを割り、754トン(平年比49%)と最低値を記録しましたが、昨年(1999年)は再び1,000トンを超える水準となりました(以下、船曳網の平年値を1991～1999年の平均漁獲量とする)。

臼杵・津久見湾では、変動が大きく、0～105トンの間で変動し、昨年(1999年)の漁獲量は37.8トンで平年比102%となりました。

推計方法:別府湾の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.514、豊後水道の漁獲量 = 製品(ちりめん)重量 × 2.380

本年の経過

2000年前半の月別漁獲量は、佐伯湾は1～3月が3.8トン(平年比13%)と不漁でしたが、4月は51.7トン(同456%)で豊漁、5月は47.8トン(同113%)と平年を上回りました。別府湾は1～3月が85トン(平年比65%)、4月は8トン(同131%)、5月は158トン(同202%)と増加傾向にありました。臼杵・津久見湾は1～3月が0.6トン(平年比36%)、4月は3.2トン(同589%)、5月は18.3トン(同318%)となりました。

ウルメイワシ

昨年までの経過 まき網によるウルメイワシの漁獲量は、1986年以降100～300トン程度でありましたが、1992年以降は、増加傾向を示し、1996年には2,300トンまで達しました。1997年以降は一年毎に減少と増加を繰り返して、不安定になりました。漁獲は主に夏期の6～8月に多く、最近では冬期の1～3月にもまとまった漁獲がみられました。

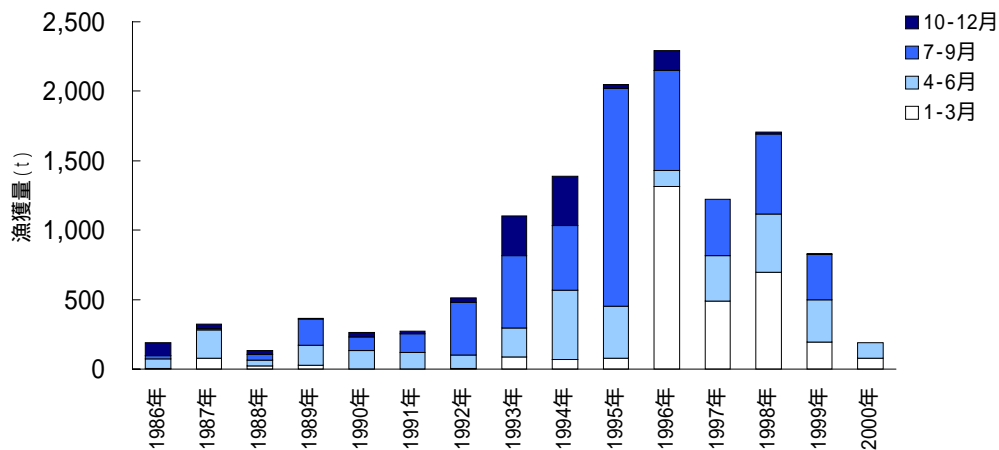


図4 ウルメイワシのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江町)

本年の経過

2000年前半の月別漁獲量は、1～3月が78トン(前年比40%、平年比36%)と落ち込んでおり、4～6月も113トンで前年比37%、平年比52%と低調でした。

マアジ

昨年までの経過

1986年以降、減少傾向にあったまき網のマアジの漁獲量は、1991年に1,000トンを割り、797トンを記録した後は、増加傾向に転じており、1998年には約7,500トンの漁獲量で、1986年以降の最高値となりました。1999年前半も継続して豊漁でしたが、8月以降一転して激減し、年間漁獲量は対前年比50%の3,576トンとなりました。

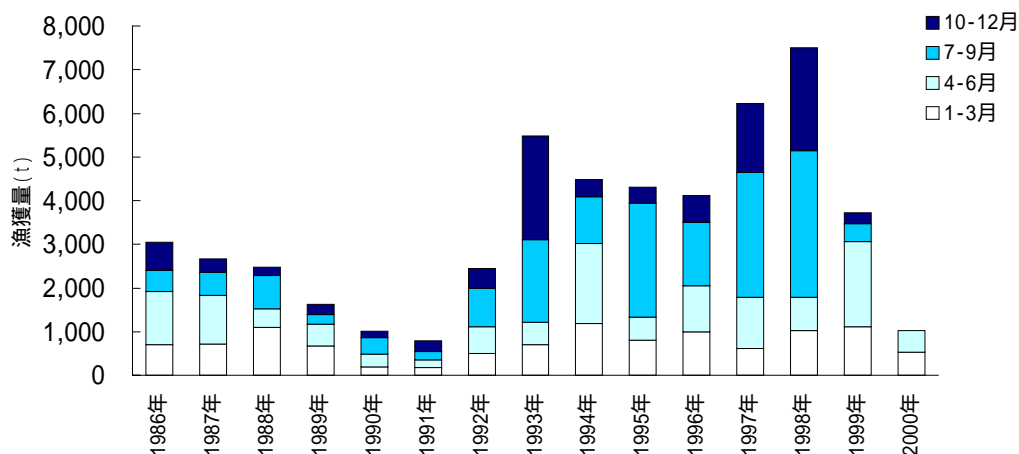


図5 マアジのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江町)

また、1988年以降増加傾向にある佐賀関町漁協の釣りを中心とする漁獲量は、昨年(1999年)には248トンに達し、最高値となりました。まき網で漁獲されるマアジ「大」(ふ化後1年以上経過)は、年間漁獲量が1,000トン前後で増減を繰り返しているのに対し、釣りの漁獲対象となるマアジ(ふ化後2年以上経過)は、漁獲量が毎年、安定して増加していました。

本年の経過

2000年前半のまき網の月別漁獲量は、1～3月が524トン(平年比70%)となり、この時期豊漁だった前年と比較すると半減(前年比47%)し、4～6月は501トンで前年比26%、平年比58%と落ち込みました。

佐賀関町漁協(釣り)の月別漁獲量は、1～3月が28トン(平年比54%)、4～6月は51トン(平年比88%)となりました(以下、佐賀関町漁協(釣り)の平年値を1988～1999年の平均漁獲量とする)。

マサバ・ゴマサバ

昨年までの経過

まき網による「さば類」(マサバ・ゴマサバ)の漁獲量は、1993年以降増加傾向を示し、1996年と1997年には、それぞれ約14,000トンと12,000トンを超えて豊漁となりました。「さば類」のうち、マサバは、近年、漁獲がほとんどない状況であり、一方、ゴマサバは、1994年以降体長25～28cmの個体を中心に漁獲され、豊漁だった1996年は9月から10月中旬にかけて、1997年は8月下旬から9月下旬にかけて漁獲がピークに達し、記録的な漁獲となりました。しかし、1998年は859トンと一転してほとんど漁獲がなく、1986年以降最低値を記録しました。昨年(1999年)は8月下旬から10月中旬にかけてのまとまった漁獲により、最終的には2,751トンとなりました。

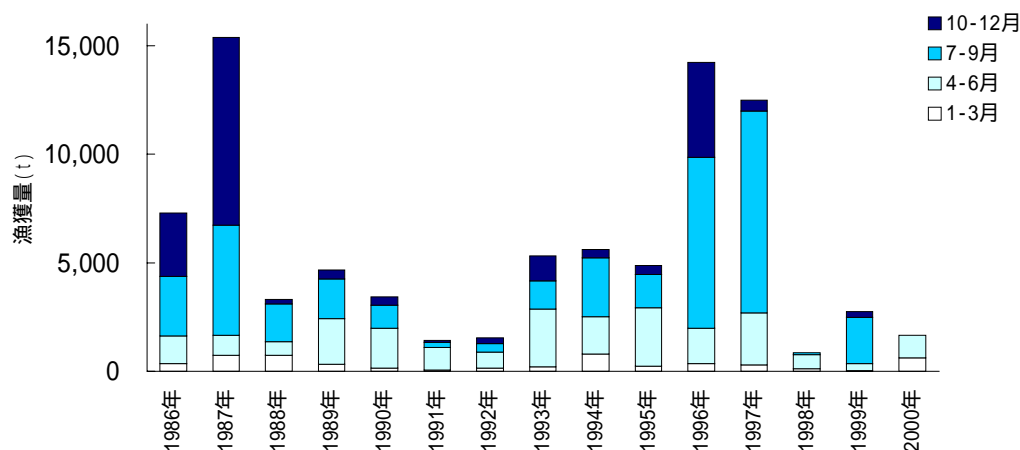


図6 マサバ・ゴマサバのまき網漁獲量(鶴見町・米水津村・蒲江町)

佐賀関町漁協での釣りによるマサバの漁獲量は、豊漁であった1992年と1993年を除き、ほぼ100～200トンの範囲で変動し、1997年以降は減少傾向となりました。また、2～3年の短い周期で増減を繰り返す変動傾向もみられました。

本年の経過

2000年前半のまき網による月別漁獲量は、3月中旬からの豊漁が効いて1～3月が630トン(前年の約28倍、平年比192%)となり、この時期に600トンを超える漁獲があったのは1986年以降3回しかみられませんでした。4～6月は1,022トンで前年比307%となりましたが、この時期の漁獲量としては平年を下回っていました(平年比70%)。

また、佐賀関町漁協で漁獲されるマサバの月別漁獲量は、1～3月が78トン(前年比128%、平年比93%)で、4～6月は16トンで前年比222%、平年比63%となりました。

漁況の見通し<平成 12 年後期>

マイワシ

【太平洋系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は前年並の低水準でしょう。

【説明】1999 年級の豊度は極めて低いと判断されます(コホート解析)。1998 年級の豊度は比較的高いものの、1997 年級以上の残存資源量は、ほとんど残っていません。



【大分県の見通し】

0 歳魚の来遊水準は低いままでしょう。1 歳魚以上についても来遊水準が高まったといえる状況にはならないでしょう。全体としては、前年並の低水準でしょう。

カタクチイワシ(成魚・シラス)

【太平洋系(日向灘、豊後水道)の見通し】

成魚については、日向灘では前年並みか前年をやや上回り、豊後水道では前年を下回るでしょう。シラスについては、前年並みですが、豊後水道東部では前年を下回るでしょう。

【説明】産卵量の推移から、資源量は高水準で増加傾向にあると考えられますが、漁況経過からみると、一概に好調とは言えず、低調な海域もみられます。



【大分県の見通し】

成魚は0 歳魚の漁獲が大半で、前年を下回るでしょう。また、シラスは前年並みとなるでしょう。

ウルメイワシ

【太平洋南部系(北薩 - 熊野灘)の見通し】

来遊量は豊後水道南東部、土佐湾等一部の海域を除き、全般的に低調でしょう。

【説明】産卵量と漁獲量の推移から、資源量は高水準、横ばい傾向にあると考えられますが、一部の海域を除き漁況経過は低調に推移しています。



【大分県の見通し】

1月から3月までの漁獲が大きく落ち込み、4月は平年を上回る漁獲があったものの、5月以降は再び低調に戻っており、来遊水準は低いままであると考えられるため、不漁だった前年をやや下回るでしょう。

マアジ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

0歳魚の来遊量は豊後水道東部を除き、前年を上回り、1歳魚については前年並みか前年を下回るでしょう。

[説明]資源量は1990年代に入り、良好な加入に支えられて高水準で推移してきましたが、1997年以降、連続して減少しています。

【大分県の見通し】

来遊量は減少傾向にあり、漁況経過等から総合的に判断すると、不漁であった前年は上回るものの、平年並には及ばないでしょう。

マサバ・ゴマサバ



【太平洋系(薩南 - 日向灘・豊後水道)の見通し】

来遊量はゴマサバ0歳魚では前年を下回り、1歳魚では前年を上回るでしょう。ゴマサバ2歳魚以上とマサバは低水準でしょう。期を通じてゴマサバ中心にマサバが混じるでしょう。

[説明]マサバ、ゴマサバともに1997・1998年級は低水準であったが、1999年級は高水準です。また、2000年級の豊度は高いと推定されますが、漁況の推移からみて、来遊量は前年を下回る可能性が強いと判断されます。

【大分県の見通し】

来遊水準は減少傾向から増加傾向に転じていると考えられ、小さばサイズを中心に前年を上回るでしょう。

その他

予測の根拠

中央水産研究所黒潮研究部及び関係府県：平成12年度第1回太平洋イワシ・アジ・サバ等長期漁海況予報会議資料(2000)

問い合わせ先

この予報に関する問い合わせ先は、大分県海洋水産研究センター 企画・海洋資源利用部まで。

(〒879-2602 大分県南海部郡上浦町大字津井浦 電話0972-32-2155 ファクシミリ0972-32-2156 e-mail: kimura@mfs.pref.oita.jp)